

人権教育実践記録

第 6 学年1・2組	指導者	瀧 口 準 ・ 山 田 百合子	
教科・領域	社会科	単元・題材	子どもの権利条約
目 標 または ねらい		展開計画（総時数 7 時間）	
○ 世界の子ども達が置かれている状況を具体的に知り、自分や世界の子ども達にとって保障されなければならない権利について考えることを通して、人間らしく生きるために、権利に基づいて行動し、その行動に責任をもとうとする態度を育てる。			
本時の学習（実践日 平成27年11月7日 土曜日 第2校時）			
学 習 活 動		児童の主な反応・様子	
1 「子どもの権利条約」について知る。		○ 新版「いのち」の教材集の先生と子どもの会話、「子どもの権利条約」の4つの柱を基に、「子どもの権利条約」について説明しながら学習のめあてへとつなげる。 ○ 世界の中には、この条約をまだ批准していない国があることも知らせる。	
めあて 子どもの権利条約について考えよう。			
2 「子どもの権利条約」の条文カードを基に内容の概略を知る。		○ 「子どもの権利条約」条文カードの内容を一枚ずつ補説する。	
3 自分にとって特に大切だと思う条文を3つ選ぶ。		○ 「生存」「発達」「保護」「参加」の中で特に大切なものを、自分と世界の他の子ども達の置かれている状況と比べさせる。	
4 世界の子ども達の置かれている現状を知らせる。		○ 新版「いのち」の中の事例を読ませ、世界の中で命を脅かされている子ども達の状況と自分を比べ、世界の子ども達の思いに迫らせる。	
5 ユニセフの活動について知る。		○ ユニセフのホームページにある世界の子ども達の現状を知らせる写真を見せて、ユニセフの活動内容を知らせる。	
6 学習の感想を書く。			
単 元 を 終 え て の 考 察			
今の日本の子ども達にとって大切だと思う権利と世界の厳しい状況に置かれている子ども達が大切だと思う権利の違いにたくさんの児童が気づき、今を生きることすら保障されていない子ども達が世界に多くいることを知り、普段自分がしていることや考えていることの甘さに殆どの児童に気付かせることができた。また世界の子ども達のために、今自分にできることをしていこうという意識を芽生えさせることができた。反面、「かわいそう」「自分は日本でよかった」という気持ちに留まっている児童もかなりいた。			